

末篇  
支那

大正  
五年

~ 13  
2927  
5 止



平谷

門へ13  
2927  
5

昭和九年  
七月六日  
購求

命題  
糖  
牛  
行勢

末糖集五編の叙

糖の歴史を記し、糖の生産と消費の増進を期す。糖の生産は、糖の消費と共に進歩する。糖の生産は、糖の消費と共に進歩する。糖の生産は、糖の消費と共に進歩する。

糖の生産は、糖の消費と共に進歩する。糖の生産は、糖の消費と共に進歩する。糖の生産は、糖の消費と共に進歩する。

糖の生産は、糖の消費と共に進歩する。糖の生産は、糖の消費と共に進歩する。糖の生産は、糖の消費と共に進歩する。

糖の生産は、糖の消費と共に進歩する。糖の生産は、糖の消費と共に進歩する。糖の生産は、糖の消費と共に進歩する。

糖の生産は、糖の消費と共に進歩する。糖の生産は、糖の消費と共に進歩する。糖の生産は、糖の消費と共に進歩する。

糖の生産は、糖の消費と共に進歩する。糖の生産は、糖の消費と共に進歩する。糖の生産は、糖の消費と共に進歩する。

教へ徳は物語るにせぬとて、ゲントのめがさう 志すに自傳の書は  
空しく、カド 昔の物語の如く、カド 昔の書は、カド 昔の書は、  
意はなかりとて、カド 白雲の書白の書は、カド 白雲の書は、  
枕の書は、カド 枕の書は、カド 枕の書は、  
おもしろい風情あり、カド 元と小説禪史の類い。  
あつて人を懐懐せしめて、カド 腸を断の條下  
とて、カド 悦ぶと、カド 願を解の條下

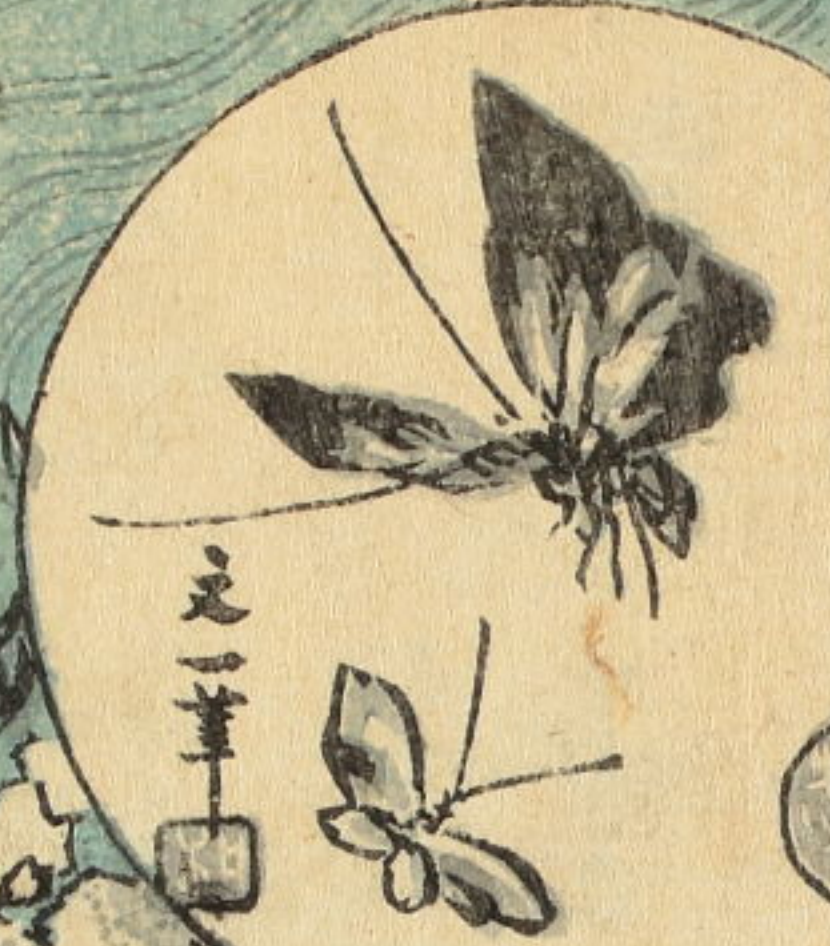
兼て

あつて、カド 故に、カド 故に、カド 故に、  
婦女子の伽冊子、カド 婦女子の伽冊子、カド 婦女子の伽冊子、  
事、カド 事、カド 事、カド 事、  
信、カド 信、カド 信、カド 信、  
書、カド 書、カド 書、カド 書、  
字、カド 字、カド 字、カド 字、  
糖、カド 糖、カド 糖、カド 糖、





未  
ツ  
公  
口



美子  
花子



文思



名子  
清子

美子

貞操  
美談

松乃花  
全本  
十五卷

松亭金水作  
歌川國直画

此は貞操作者殊々小丹葉の  
情の濃き成探を是早中幸に  
りのおれれば教訓に於る事  
終自ふして月籠せむおの  
かひのろき物語なり

化粧水

花摘

此は貞操作者殊々小丹葉の  
情の濃き成探を是早中幸に  
りのおれれば教訓に於る事  
終自ふして月籠せむおの  
かひのろき物語なり

酒の意ひ  
妙業

梅の雪

此は貞操作者殊々小丹葉の  
情の濃き成探を是早中幸に  
りのおれれば教訓に於る事  
終自ふして月籠せむおの  
かひのろき物語なり

山

蘭情未摘花第一編卷之上

東都 松亭金水編次

伊勢熊

第廿五回

此は貞操作者殊々小丹葉の  
情の濃き成探を是早中幸に  
りのおれれば教訓に於る事  
終自ふして月籠せむおの  
かひのろき物語なり

押拭ひを世が袖と引よそ 清「三」中「お長」さるる。こゝに私ハ  
本さんふ。是ツ限控らさるて。まゝと怒むのるんのこといふは  
のりません。二年あつた。米さんのお徳で人並ゆして居る。是ハ  
歳許ごう志まらぬもの。たゞ先づ返さかろうとて何しハ  
私磨と仕すはゆめ。あうしむすし。何故押すて  
あつた。こゝに。さうらう。その返ハ新ぎ。下おひ。さう。ばも  
万ちあふ。小牙更されて。あうしむ。さう。万ちあふ。万助の。あ。個  
は。二。極。入。て。万。ち。あ。ふ。小。牙。更。が。叔。父。と。て。あ。の。牙。と。米。次。郎。が

海の中へ。後で。波および。さう。入。小。船。は。似。あ。の。信。実。の。  
た。え。年。ハ。似。あ。とも。お。か。の。ぶ。牙。更。して。米。次。郎。と。死。せ。ん。と。  
思。ひ。居。る。小。男。氣。の。誓。り。馬。と。と。ま。る。が。う。今。回。あ。の。叔。父。  
あ。の。と。て。親。類。一。回。不。通。知。な。女。を。脱。小。さ。る。あ。の。中。何。卒。  
して。この。縁。法。と。止。させ。か。う。と。思。い。ど。も。固。来。者。人。同。志。の  
あ。ま。あ。中。で。延。引。ら。う。ぬ。訳。な。れ。ば。強。て。止。中。も。さ。せ。ら。さ。い。  
さ。ま。い。と。も。て。その。女。の。親。と。ら。小。奴。が。居。う。て。の。悪。意。女。兒。と。脱。  
小。越。し。て。去。り。て。合。意。小。さ。る。様。の。左。衛。門。女。と。持。し。て。ハ。



借家のあらめもあるに何ぞおれ小娘様が出ると夫を僥倖  
破儀小さ母さへ米次第が身小丸ても倣倖よある理屋を  
で種くユ夫してそれらにば身更へて六石残米が慈母とも  
お儀のう人のゆきまご小儀ををぶあうら。今日が日すは淫癖  
もせは。化へ回折ゆして垂て六あゆのまけ。叔今夜へを女を  
らよく運つる。とらふるで。今朝の大雨難を以て運移  
て来さる。それと故障小まづ今夜の障れへ遊ふもの左様と  
海で破儀の子合整のころへを方とそつくと。障ゆまらふ

仔細なる。志し一自己が指揮をて押さひまことりあゆハ  
電氣ゆもゆして六あゆな。自己小遠ても。不視不知の顔で  
居ゆやア激ると。始めてつと身更の入儀をまらうるれど。  
たへ親ゆら悪ゆら。定めて思ひあゆらと中で内へ入る儀小  
まで。あゆと私があゆく。いませ。破つた六米さんの思ひ  
とらひ義理もなば何様とこのと軽舎の思慕もつらぬ  
その中め。サア運くるる。今うら社と尤おさんの意まゆ入  
私も実の惣とて身。餘雨の女と障れと。あゆとあゆと

味いも。おのりぬすの淡きあら。ツイぬきる。こきも  
おのひ。連まて。伴と白羽根町。赤くは。依り。形りと。万  
おろさん。の教も。めいど。まさる。心ふ。あつ。こを。手。指。より。こ  
も。せ。ば。元。赤。さん。お。仕。て。あ。り。て。私。を。ま。ま。て。居。す。し。と。が  
傷。で。思。ふ。や。う。で。あ。る。く。増。れ。准。後。の。ま。ま。び。や。う。お。の。ひ。も  
よ。ら。ぬ。故。障。が。出。て。さ。ぞ。米。さん。が。と。思。つ。て。う。理。屋。不。う。と。あ  
胸。が。張。裂。か。う。で。出。る。こ。と。後。悔。し。も。後。と。死。後。う。接  
扱。仕。か。う。と。の。万。お。ろ。さん。が。口。後。と。ヤ。と。味。く。わ。と。あ。つ。と。出

果しおぬすし。と。扱。を。毎。日。あ。ら。う。と。夜。も。麻。と。は。ば。梅  
い。る。お。ろ。さん。が。お。ろ。さん。の。お。ろ。さん。に。お。ろ。さん。と。い。う。お。ろ。さん。  
の。お。ろ。さん。で。遠。い。こ。と。思。つ。て。母。の。お。ろ。さん。と。私。お。ろ。さん。  
幼。者。を。お。ろ。さん。の。お。ろ。さん。で。お。ろ。さん。の。お。ろ。さん。の。お。ろ。さん。  
と。お。ろ。さん。私。が。お。ろ。さん。自。殺。し。て。回。る。お。ろ。さん。何。れ。か。し。て。お。ろ。さん。  
も。お。ろ。さん。の。お。ろ。さん。で。お。ろ。さん。の。お。ろ。さん。の。お。ろ。さん。の。お。ろ。さん。  
か。る。心。の。お。ろ。さん。の。お。ろ。さん。の。お。ろ。さん。の。お。ろ。さん。の。お。ろ。さん。  
傍。の。お。ろ。さん。の。お。ろ。さん。の。お。ろ。さん。の。お。ろ。さん。の。お。ろ。さん。

まるをえるよりも。老世六職てそのもとを授人きりせ。其ヤアお本  
 何れまゐるのどエトあるとるより清く助へ。此に入て刺刀  
 をおさすもまげぬて。一そのおむへ何れまゐるを後まま  
 他をまゐるのどナトのをこそ清く清く後まゐる。清く何れまゐる  
 餘りまゐるも私ゆへおまさんが万一人もまゐるものと  
 きて来れで居るとやうう。おれうへ見ると狂おとも迷上  
 とも思ひますせうか。各々の身おめて見ます。何れ  
 とて死すべし居るとすせう。まも最まうう情いとう。梅

しら思ひ造て仕るるるる能気味と結句結しつとも志  
 らるのが今りの通り左様に入すまゐるお母さん  
 育ぐる女の縁を断て私を完へはえんてやると。いへば  
 まこと思ひ死て見ると日來うと思つてまゐる居ると。  
 情いゆうで死うて。まゐるの毒中も思つてけいごとお南化  
 の位切とまゐるお布て出世の邪魔と。おひつておふらうふと。  
 野中も志るる白羽根町へ往くが私の運の端は悪くは  
 るますト承る悦後のま中お西赤く茶青く茶月を授伏



しと悔歎く。書下表とて。さうまことゆひて。本一。ア。ま。つ。て。ま。で。  
分解。の。目。来。う。う。と。実。候。と。六。あ。つ。て。る。る。清。落。が。不。則。と。  
と。思。つ。と。う。ら。ま。個。と。恃。ん。で。死。ぬ。と。い。を。せ。心。列。小。春。で。これ。が。  
樂。の。と。く。化。の。曲。尺。こ。サ。清。落。死。ハ。一。也。ヨ。こ。る。麻。く。し。の。王。  
け。合。と。ト。を。ま。ま。つ。け。清。落。ハ。長。し。の。中。小。舞。し。の。莞。尔。  
ま。つ。ひ。て。顔。と。見。ぬ。げ。猶。息。と。つ。つ。と。吻。く。清。一。マ。マ。ア。指。さ。  
し。の。子。へ。私。ま。ま。ア。ま。ま。い。心。ま。う。と。思。つ。て。何。花。小。夜。し。う。と。あ。  
あ。こ。ら。う。実。小。形。し。て。居。る。空。ハ。あ。り。ま。す。一。る。ん。と。そ。こ。下。も。

幼者されとていふのも。不接や。さ。ま。ま。之。下。胸。を。赤。い。傍。へ。寄。  
来。幼。者。ハ。心。ま。ま。サ。あ。う。し。今。の。説。で。ま。け。バ。何。も。か。も。ま。つ。う。り。  
分解。と。何。ぞ。も。を。ね。さ。る。ゆ。び。ら。り。と。推。量。し。て。居。る。と。う。て。  
を。助。め。も。然。ふ。引。き。て。叔。也。と。一。味。合。体。う。あ。う。し。は。始。末。  
どう。でも。あ。ら。う。先。き。一。番。つ。て。身。談。と。出。さ。び。小。者。う。け。の。  
出。来。と。大。當。り。と。そ。れ。で。清。落。ま。ご。お。茶。の。服。と。つ。ま。ま。と。  
と。あ。る。を。免。咎。れ。と。あ。ら。う。と。い。ふ。女。ハ。お。茶。が。妹。の。ハ。ア。サ。  
ト。夫。より。細。く。一。什。の。と。を。免。咎。バ。清。落。怕。里。し。て。久。く。

續く落命小母子三人が牙の齧齧りの小のりもまぬ難儀  
と心づきし思ふ事も。あつ小甲斐あまはけ月のたつらるるま。  
わくわくが初書儀中も。そまこと奈しと小をの。心だつらるるま。  
貢でも。女世帯のやもせあまき。説活きくさ人様のこと後。  
をやく月住小あつらるる。あま子三人住小を食せりとも  
侍小居て書し。さうさくは。つらと。平生小思ひの終るる。  
ほて苦累のうき知れ。くく矢よりも早しと。あつ光陰  
さふ待幸く。年の明のと美人ても。長いうちと。明らるる

よけ色今年来く二年ふ。うらていあく。おどろき。月日の  
うち小身更され。おぼも何のその。化の汁液のお光小  
されて思ふお方へ夫火小。勅當の承と穿て時へ。を疑く  
さふ百傳の胎をい。あて後復火小。死すよと。まても思ひ  
と。まこと引く。て妹の世ふ來おる。そお説。母之住小樂を身  
と。うらさく。千女万女。の。金と。は月小費ひ。より。うらさく  
籠る。あつらるる。姉が。長らぬ。むら。を。磨れを。踏けて。苦  
芳さ。まも。く。什。麼。何の。因果。を。結。ぞ。と。ま。と。深。く。も。榻。の

ちーがき百羽根口説ても花強のまき。米六郎の熟字で米一  
イヤ何れもあも不残時命サ。悪魔さりの入腰りもうま。形  
咽ぐ地ふ志まそるま。け方中もま。は花がある。今日元  
人の素とる。へ誰もあ。わうら。松内とで。サア白羽根町人  
巻てら。と。胡小。味ふ万。さんと。と。助と。の。と。素  
つ子ら。その内。あア。け方。で。手。苦と。と。ら。ゆ。が。の。身。が。  
の。あ。る。母。とも。よく。お。僕。と。て。ま。て。数。さ。う。長。居。る。お。と  
ま。ご。ア。リ。世。との。る。大。き。ふ。氣。と。あ。る。さ。ア。清。き。ん

素世の筆でも連さむ。う。久。一。が。う。ぞ。一。松。と。い。ひ。お。新。い。が。  
左。松。と。て。居。る。う。ら。誰。ぞ。ゆ。と。大。き。ふ。る。が。悪。い。サ。ア。等。も  
い。や。く。抄。や。せ。う。ト。急。ま。ら。ま。そ。清。く。剛。老。世。も。何。れ。も  
よ。ま。ご。今。さ。ま。名。残。惜。ま。れ。て。ゆ。と。も。る。ま。風。情。の。あ  
ま。と。初。し。て。説。ま。る。う。ち。ゆ。も。万。を。あ。ち。助。が。素。の。せ。ぬ。と。  
大。が。障。多。く。さ。ら。う。て。も。ま。と。春。伸。小。入。口。と。え。久。の。思。ひ。  
切。う。ま。ま。ご。當。り。ん。よ。も。の。い。び。と。ま。ま。う。荒。人。さん。の。素。  
元。と。う。の。住。る。島。が。下。と。喉。を。ま。う。是。堅。田。小。群。居。る。ア。の

一連たつとつら。跡の夜雨寂寥とつらふけは  
是より米次舞への思が長のお里が家小老世を  
とも小在お里へその夜より。白羽根町の後見を  
止る。勢くと書まるとあるべし

第廿六回

証と鼓のそ佛ふまへ神田ぢぢ町へま佛ト量の儀ふ  
唄ひしつらと今より昔のゆ。何の如法に証うちあつ  
し。腰少六ツの鈴と提て。ちやちや。紙屑哭。虫と

よく突ト純たる。夢とつらとつら。小浴市中よびあつ。院よ  
世の間と茶中。女樂さんともいふ。あつ。東  
府のまん中橋。陽中への中通り。妻の拾ひの二間に  
後宿所と本れとつら。二階へ之流が汁線場。て。鮎  
深の葱根花四時の英花鳥の彩もよとつら。後  
ぬ。氣根を蒸し後の方。途くとお流の茶碗と土瓶を  
そて二階へのつら。お茶碗のまふとつら。根が  
む相生の織えるんぞ。権とつら。押花と織まふのつら



居ると。疎小胆が透るやうでございませぬ。何れと彼  
お来るうと思ひます。アア私どもは計程の程  
大急ごらう。あつと織合してその様子をさうする  
のうらむづう。お花の相違なくとこそ家平安  
ても誰とらぬ女児ごころぬまきわが。実考入てこ  
と餘り面白く移と思ふ。あつと今ふおこませませ  
そらやア左様でものらうが。若母も大急ふ事ごと居る  
のサ。早急私が途でなす。お園と縁うき化様さうツイ

をこ思ふ情合ふぬのんごう。可也くして替るゆやア換  
らる一日と移して居るけこと。実とまてえとと天  
う降より地う涌より。まことらる換り念ぶある。お  
移く女児と能気ふうて。恍惚と居るも。餘りつまずく  
と思ふのサ。アアサアアアアアアアアアアアアアアア  
世とも氣をいらすまんと。アアアアアアアアアアアア  
持て左様いららば。よくお花のうらむづうは方で  
心しわらぬ。アアアアアアアアアアアアアアアアア





紙屑買とよく買と噂で来る。夢を覚つて、久松と紙屑を  
夢をせうト云つて下つて。押入より長版紙を印  
の反古を把出せ、久松と云ふこと。正高小吏とよく買つて  
ちも夢をせ、久松と云ふこと。山内在史、厚きませんト様を出して  
ける。折らう。井と眼めつて、党の事、紙屑の中、小のりをつて  
久松、夢を覚て、夢よりすく、引出せ、日向、事切、二枚を  
り、小。恐ろしく、手筒の反古、宛名、相生、万、あつ、校下、の武  
さ、ち、助とのり、叔の、名、茶、でも、紙、を、後、ひ、ら、け、目、に、テ

不測と十行をるるを讀下せ。合点のゆゑ、その文体、ふまが  
ら、く、と、巻、納、め、久、松、の、反、古、の、面、白、い、を、跡、づ、ら、私、小、夢  
て、是、も、十、六、文、を、る、る、小、夢、の、一、つ、目、也、も、と、ん、ご、物、取、寄  
な、か、方、ご、も、久、松、イ、サ、サ、け、ぬ、麻、尾、草、と、云、ふ、の、邊、に、さ、ら、う、な  
手、紙、が、好、サ、ハ、く、一、ま、ら、う、と、云、ふ、二、百、小、頂、き、ま、す、その  
反、古、の、か、頁、小、上、ま、せ、う、一、左、折、の、工、を、も、ち、て、校、抄、と、し、つ、つ、  
紙、屑、買、の、後、と、由、緒、を、據、で、チ、ヤ、と、く、紙、屑、買、と、行、ふ、る。  
跡、小、久、松、の、兄、世、の、鼻、の、紙、屑、の、船、と、の、ち、久、松、何、ぞ、も



紙屑心もろ  
叔の謀計  
門前のズレ

1712

叔父の手跡小遠くは、テ異る文まで。今兼てお情の  
白羽振町の一件お里の方も従くと。手続よくなすし  
まふつき清静もいよく、啓札の喚小振込中の手書  
小妙斗小のなゆ。テナ。耳く来さる米次并どの書  
お書の手紙と心清く、米次并の十分小の書  
何ぞお流さぬの心行方へ私も従く、採り申すべく  
ト僕等もそまそ考へ、久しう一向解せぬ清静と  
アノ三浦屋のうまさん。まか啓札の喚小振込と、テ三浦屋

まとお流さぬの心行方とのもの異るまで、テ三浦屋と  
心のうち。清く流る密と素て、高より、皮居るか流も、  
奉「チヤマアとまの三浦屋の、何と隠しませう、相室の方  
あつと、昔倚が親の名。そまが、何と、お茶振の叔さん  
とまの、お茶、久しう、お茶、まさん、お茶、お茶、お茶、  
ませさんが、お茶、お茶、お茶、お茶、お茶、お茶、  
スハテ、お茶、お茶、お茶、お茶、お茶、お茶、  
のこと。まさん、お茶、お茶、お茶、お茶、お茶、お茶、

今回又の万が一と。素と時よりの一仕一什。さうして倍  
久治の姿。踏で知る。か流が素生さその左指うと果  
をり。手と組で居るう。うが思ひ付る。ことやら。独  
息のそのわらう。ゆり素の母の沖津。門口のけて進入。  
頼る。より久治の今ある。ちう。は身と具小作。あの  
互右とも儘でまきせ。作小行がる。そのそ。暗急素。  
別人する。叔の左助居ると逢。と母親の沖津の左助が。た  
まらうて。物いんと。ひる景勢。久治のまこと。押通て。久へ

叔さん何ご。大造息の。出た。め。ま。世氣の。極の。程が  
あつて。ヨクへ。その。ア何ご。う。氣小。あ。ま。ア。何。の。小。程。下。向  
う。け。ら。も。そ。面。を。見。小。頼。の。汗。を。拭。う。ら。必。小。手。拭。で。志。を。く。拭  
き。婦。さん。め。久。治。も。ま。ア。中。を。異。な。自。己。ア。つ。ま。な。後  
正。と。特。ま。れ。て。ウ。レ。と。ま。ま。が。身。の。不。背。今。又。後。悔。の。百。サ。ト  
り。あ。ふ。久。治。も。その。母。も。夫。と。大。う。と。素。一。ま。が。う。も。志。を。叔  
して。理。を。ま。け。ば。を。助。い。ら。う。く。ま。面。も。あ。て。彼。万。を。あ。特  
ま。ま。そ。素。格。の。波。汁。を。う。ま。う。思。ひ。素。の。は。後。より。

茶屋の勤當り。か黒の白羽根町小陸まるきり。みま  
妻し。後り。き。実小枝介。又。因り。き。勿傷。後  
さん。困り。後。匠。中。の。万。さん。の。校。計。で。  
清。指。が。身。交。う。何。う。小。能。て。一。本。ま。や。そ。の。本。談。を  
い。その。玉。る。と。り。の。茶。さん。の。勤。當。り。の。中。に。い。ま。い。  
思。い。わ。く。が。本。場。小。能。り。て。あ。る。や。ア。不。残。在。と。い。ふ。も。い。ま。い。  
心。で。後。悔。ま。る。た。う。ら。い。と。ア。久。治。け。う。人。何。能。ま。ら。う。更。ら。う。  
い。ま。い。世。信。よ。る。且。ね。の。中。実。け。後。小。ま。る。後。ア。ト

や。ま。う。の。け。き。ど。イ。ヤ。ヤ。さん。と。話。あ。ら。う。この。サ。ト。一。什。の  
影。し。小。懐。り。久。治。か。の。女。古。を。元。中。と。え。ま。い。や。ア。は  
い。商。小。茶。之。が。あ。ら。ま。ま。せ。う。ま。ト。有。働。り。結。の。借。人。お。け。び。を。勤  
二。眼。者。で。不。精。息。き。ヤ。と。う。と。と。是。が。ト。驚。く。と。母。の。沖  
津。も。猪。す。ま。ま。せ。一。つ。ま。き。く。わ。ど。う。能。う。と。後。小。早。こ  
け。う。と。あ。ら。う。切。満。た。根。り。の。度。で。見。ま。い。万。を。う。さん。と。あ。ら  
の。腹。ま。い。ま。い。さん。と。う。を。度。で。見。ま。い。け。き。ど。と。善。て。久。治。が。お。世  
話。よ。る。且。ね。と。ら。う。の。切。り。う。ら。い。何。も。あ。ら。う。一。味。し。て







出。嶽梅小罪も消るゝをら。何もかもお明て。任を仕後  
 とのいごえく。左振りゆする。思が是人尋ねて  
 往て。一笠ともちやく。至始末を且形ふをさして。お承の  
 上を。ウク治や左振。やアる。い。ア。ト。夫る。往て。元辰  
 ト。ま。及。ま。い。く。ま。う。家。と。ま。出。思。が。思。さ。て。あ。ま。り。

倉本平

閑情未摘花第五編卷之上

閑情未摘花第五編卷之中

東都 松亭金水編次

第九七回

宮様邸の奉り。の。小。秋。秀。を。か。も。と。風。を。待。ぬ。君。を。あ。ま。さ。す。
 耳秀の羅子日和のひき。小春月。今日。十。まり。七。日。由。大。意。
 大恩の冥揚へ。歩。を。と。ふ。雪。賦。の。釋。集。目。川。菜。飯。も。回。樂。
 も。賣。ま。す。の。掛。れ。ハ。例。も。う。ら。ぬ。繁。花。の。土。地。名。さ。入。不。得。
 の。廣。小。路。も。宛。終。樓。さ。往。來。の。ゆ。き。を。ひ。一。料。理。屋。の。奥。二。階。



ま ちるちる 慈母のいよまをもさ。まの彼の道とのいよまもさん  
が 在の半座ごとも。然るに 純智よアわく。徳をゆく  
して化を強ゆるめやアのさうね人。里一ヤヤ大さう悪くおまよ  
さるる男実利よつきます。ま一何故く。里一うまごまよすく  
考へてか 見ゆるい。か 希松の配偶くと。そまをさうりて樂ま  
ゆして三十里とわうりいよまの折ら。が 木のまをさうりの何のと  
かまよまのい。まのまやア我を化めても 何松うまのいよ  
るりまよアま。ま一大遠く。固来自己小物で折道と

ま ちるちる 慈母のいよまをもさ。まの彼の道とのいよまもさん  
が 在の半座ごとも。然るに 純智よアわく。徳をゆく  
して化を強ゆるめやアのさうね人。里一ヤヤ大さう悪くおまよ  
さるる男実利よつきます。ま一何故く。里一うまごまよすく  
考へてか 見ゆるい。か 希松の配偶くと。そまをさうりて樂ま  
ゆして三十里とわうりいよまの折ら。が 木のまをさうりの何のと  
かまよまのい。まのまやア我を化めても 何松うまのいよ  
るりまよアま。ま一大遠く。固来自己小物で折道と



赤くぬまりとらう子ネイミヤ丁度り加減ぞ先刻あら  
春の時分物どころ思ふところ。種々昔昔をやるを為ど  
らうと実ふ可也さうぞらう。里ナニも私へ何れぞ  
小居ての昔芳ごころ思ひあはれお花あけまうり何れぞ  
定めて思ふ事の宅へお出るすので。清さんや無五ともお後  
きくか存在らうと思ひますすけさうに候はる。らぶ  
志助さんもそれ一向奉つらうらう。思ひあはれ今更  
流くのみで記書する人まわして来るらうと申してはま  
あはれ

思ひすべからしお月よううそ。彼が下りき一へそをわア  
自己も彼が下りし何れし居るうと実ふ按じこそ思ひ序  
ごころ思ひはむ使て無母めも遠く女地をやるが直けるうら按  
いそ居るらる。里一まも直ら。余まり進くうらへ仕ますまらま  
みアノ丁稚がまナニのやあえハナ。自己がよくもつくるら  
大丈夫と。里一そんなら左ねい。一ま合らうらま。サア早く  
常でも志あ来。一ナト是より駄定はすぬ。一つは出  
免らく小勢も人通り。殊も女の途果放どわづら里は



驚山の家を。忍が。男と。志。あふ。世。清。助。八。本  
 次第が。情。あて。ま。づ。皆。く。女。坊。の。ひ。その。同。もの。で。杖  
 柱と。情。こ。一。人。の。身。の。災。難。小。ま。こ。も。苦。勞。の。憂。思。ひ。身  
 の。る。累。と。仰。ち。う。二。人。二。階。小。對。坐。て。笑。ひ。ま。り。ひ。そ  
 ろ。う。門。は。の。け。て。男。の。姿。ハ。イ。ち。と。か。情。こ。中。ま。す。ト。時。で  
 二。階。と。清。と。下。つ。て。見。ま。六。年。齡。二。十。五。六。の。あ。る。男  
 一。何。方。う。か。出。ま。さ。い。ま。一。男。一。女。は。け。方。は。お。里。さん。の。宅  
 へ。と。ま。す。う。ま。清。一。左。松。サ。は。方。の。女。兒。と。お。里。と。ま。ま。か

ね。ち。と。男。あ。る。宅。小。居。ま。せ。ん。志。あ。り。今。人。生。憎。あ  
 す。免。び。用。う。ら。私。小。屋。作。ら。せ。て。ト。ま。い。ま。一。時。を。男。ハ  
 家。の。松。子。あ。る。く。と。見。由。一。う。ら。男。一。女。は。け。方。は。お。里。さん。と  
 ひ。お。方。が。お。在。ら。ま。せ。ん。う。ま。ト。同。と。何。と。言。ふ。へ。と。網  
 小。書。時。き。一。造。り。一。が。忽。此。は。男。接。し。て。清。一。左。松。サ。を。松。子  
 方。は。お。ま。せ。ん。ま。と。見。け。方。は。ア。お。ま。ま。す。又。男。一。ハ。テ。何  
 ども。その。お。里。さん。と。ひ。お。方。の。宅。小。お。在。ら。ま。る。中。う。小。女。ま。し  
 と。ト。松。彼。方。は。方。と。見。ま。一。と。腹。も。一。つ。と。受。ぬ。る。ま。ま。世。の



よるわが家の不  
 二階の上り足頼きーわとて夢を伝へ 清さん人への後  
 宿屋の久治とのみ人との。私の宅へ出入でよ。兄さんごとの様  
 友達サ。何し小春さうら子 清さん 下ウ夫下アお黒さんの叔分  
 み家ご志助の甥うエ 清さん 清さん 清さん 清さん 清さん  
 とまで仰ーさうら直大さとの叔と何う叔分で。モウ一妻を  
 うゆども妻とのじわアわう。下二左様でもお母の兄さん  
 めわア種々世話ゆめ暮て居る人さうら。先頃沈河の飛や  
 の二階小隠をて居る時。私と母ひて妻と人サ一今左様く

夫がわアお家の所ぞ。二回二回をさうらさうらさうらさうら  
 ろ人ごとのさうらさうら。下二左様でもお母の兄さん  
 うゆども妻とのじわアわう。下二左様でもお母の兄さん  
 めわア種々世話ゆめ暮て居る人さうら。先頃沈河の飛や  
 の二階小隠をて居る時。私と母ひて妻と人サ一今左様く



ます。まふ知らん頼きして入りあはる。不孝とわんざりて  
またトシをまて思ひげ眼みうらも。因と湯休の袖で松  
ホレニ使た一もみのる。方しらの眼うへた入る。きこえる  
昔倚が故持親るまづこそ時よめ。いひわしておほくわの  
いしをのり物作らるとまふ。よ一罪もあふま。ト三つを  
処平伏て。後のもる罪情である。清と勵も作候。そ身の親の  
いふふまき。茶一と更への思が。長の方を。あま。杖と使マけり

第九八回

冬の目影のたるび。きく。冬南を。面小四也。ま行はく。もま  
小一サア。く。を。宿る。易。處。を。る。と。入。と。あ。で。桃。灯。持。の。込。入。る。後。悔  
へ。克。小。ま。ぶ。び。に。往。松。の。毒。可。入。出。ると。穴。纒。の。入。電。ダ。の。  
くらを。忍。く。仕。で。ナ。纒。と。一。歩。二。歩。な。り。と。を。し。て。け。方。の。角。の  
酒。を。て。空。の。と。一。升。丸。て。ま。で。く。色。毒。コレ。サ。を。の。布。小。流。場  
と。思。て。ま。で。ま。る。一。ハ。イ。ク。一。色。ぬ。ハ。ま。ア。何。也。仕。の。ハ。マ。ク  
入。る。ま。は。し。の。ん。と。毛。一。ぬ。の。が。今。ま。う。は。ま。く。る。の。う。ら。ま。は  
て。ま。は。し。の。ま。ハ。三。今。夜。ハ。ぬ。び。と。の。ま。ヨ。往。松。の。一。座。し。ら

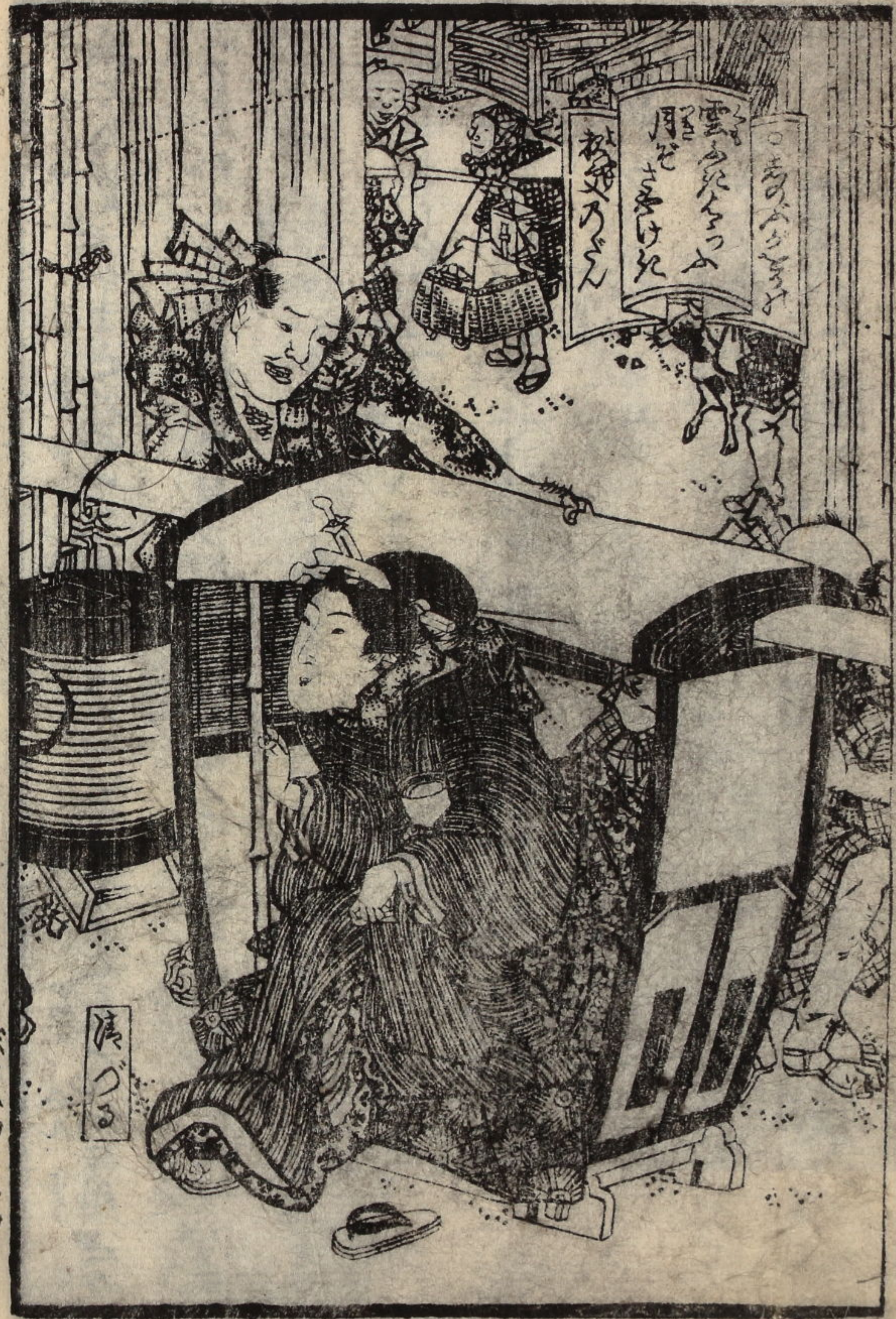


「おれは自分よな彼と云ふは、さういふは、  
「何の條うりやうあるものう。」「二法と稱て来ませうう  
「おれお止ヨ。今お急めが、この時ある急いさう。おれは  
「おれは自分よな彼と云ふは、さういふは、  
「何の條うりやうあるものう。」「二法と稱て来ませうう  
「おれお止ヨ。今お急めが、この時ある急いさう。おれは  
「おれは自分よな彼と云ふは、さういふは、  
「何の條うりやうあるものう。」「二法と稱て来ませうう  
「おれお止ヨ。今お急めが、この時ある急いさう。おれは

「おれは自分よな彼と云ふは、さういふは、  
「何の條うりやうあるものう。」「二法と稱て来ませうう  
「おれお止ヨ。今お急めが、この時ある急いさう。おれは  
「おれは自分よな彼と云ふは、さういふは、  
「何の條うりやうあるものう。」「二法と稱て来ませうう  
「おれお止ヨ。今お急めが、この時ある急いさう。おれは  
「おれは自分よな彼と云ふは、さういふは、  
「何の條うりやうあるものう。」「二法と稱て来ませうう  
「おれお止ヨ。今お急めが、この時ある急いさう。おれは











もそのいであ個まがらほつヨトは時時あそ茶次第が別條より  
 ね一唱成ゆてせいの夜よ救せ一ハ清結ううとまきりの  
 うらお里へのよく慈結して姉と妹がまをえのひ。志らな  
 りゆふひひまがら。化の無業と信とありひ。姉の妹が牙の  
 出世に防げううーと後悔すまがら一怪れな女みの情と  
 實でえくも情るや。その夜より一て良人の勤者。後屋  
 るまの遊女の。常と一まけとめまぞふ。執意ののうと胡  
 夕の若芳よつけ七姉の。姉は眼一一の目来神るあまの

是取も平。と互よ逆の儘ふありの。時刻と一しけり。米  
 活弁のあ個とあま。米一モウく直なる。救回まあそあまの  
 沢合と互ふあらむるハ。恰方一サ。それくまそ慈母の中。  
 いろく一影一がのけと。さるやアまア流のりひとてま世  
 まど酒のあらう。是うらまうと飲で。元人海まが魚。ま下  
 サア。畑が出来ま一と。慈母一ツ上ツて。清結さんよああが  
 うまら。まどあうらうらうら。夜がまそせつららそ。秋候と  
 て春のまうら。マヤ丁稚どんが睡さうらうら。二階く。





強しくいふ。マモシ、為母が本氣よかるといふ。可矣トモア  
多しうせき。清「モシお後がむづうーうア。何方でも一個うさ  
き。里「マヤむーの豆清さんごうラ。ませいさんかお出の。ませい  
何え。何うあつて。ませいとのうア。アか。お花。モく。地とまことかま  
き。ませい「まやア尚然サ、惚ろろ入清さん。ませい「ませい  
昔「トト自己ハモウ、謀やう。ませい「サア、庇人が休くととーませい  
てませい。ませい「マモシ、母切らる。火の利んの後様。  
マヤリン、マヤリン

閑情末摘花第五編卷之中了



閑情末摘花第五編卷之下

東都 松亭金水編次

第九九回

活の外外の方で。著佐の安由ま。茶次第の枕を接  
げて。ま「ハテよく久治の安よ。仙く居るがト安く倒る。  
ま「世に及み。ま「久治の安よ。ひら。ま「せんハ。お花で。ませい  
ま「よ。ませい「久治の安よ。ませい「入。ませい「お花。ませい  
ま「安。ませい「入。ませい「お花。ませい「入。ませい「お花。



て  
手とそく人<sup>。やうく</sup> 御<sup>い</sup>と<sup>ま</sup> 出<sup>い</sup>せ<sup>ま</sup>六<sup>と</sup>を<sup>ま</sup>助<sup>ま</sup>へ。何<sup>い</sup>時<sup>ま</sup>分<sup>ま</sup>と<sup>ま</sup>くと<sup>ま</sup>天<sup>あ</sup>を<sup>ま</sup>九<sup>ま</sup>めし  
新<sup>あ</sup>乃<sup>ま</sup>ん。米<sup>あ</sup>次<sup>ま</sup>希<sup>ま</sup>ハ<sup>ま</sup>え<sup>ま</sup>と<sup>ま</sup>相<sup>あ</sup>と<sup>ま</sup>と<sup>ま</sup>一<sup>ま</sup> 米<sup>あ</sup>一<sup>ま</sup>何<sup>い</sup>と<sup>ま</sup>を<sup>ま</sup>助<sup>ま</sup>さん。イ<sup>あ</sup>ヤ<sup>ま</sup>怪<sup>ま</sup>ら  
らぬ<sup>あ</sup>為<sup>ま</sup>辨<sup>ま</sup>。夫<sup>あ</sup>れ<sup>ま</sup>も<sup>ま</sup>ア<sup>ま</sup>久<sup>あ</sup>と<sup>ま</sup>何<sup>い</sup>う。自<sup>あ</sup>己<sup>ま</sup>への<sup>ま</sup>分<sup>あ</sup>解<sup>ま</sup>。坊<sup>あ</sup>主<sup>ま</sup>よ<sup>ま</sup>ら  
と<sup>あ</sup>の<sup>ま</sup>よ<sup>ま</sup>子<sup>あ</sup>け<sup>ま</sup>久<sup>あ</sup>ス<sup>ま</sup>一<sup>ま</sup>左<sup>あ</sup>松<sup>ま</sup>サ。坊<sup>あ</sup>主<sup>ま</sup>ゆ<sup>ま</sup>も<sup>ま</sup>奴<sup>あ</sup>也<sup>ま</sup>も<sup>ま</sup>。多<sup>あ</sup>う<sup>ま</sup>ギ<sup>ま</sup>ア<sup>ま</sup>ら<sup>ま</sup>り  
ます<sup>あ</sup>め<sup>ま</sup>工<sup>あ</sup>候<sup>ま</sup>く<sup>ま</sup>コ<sup>あ</sup>子<sup>ま</sup>と<sup>ま</sup>安<sup>あ</sup>く<sup>ま</sup>見<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>や<sup>ま</sup>ア。お<sup>あ</sup>松<sup>あ</sup>松<sup>ま</sup>多<sup>ま</sup>余<sup>あ</sup>受<sup>ま</sup>る<sup>ま</sup>い  
條<sup>あ</sup>で<sup>ま</sup>お<sup>ま</sup>特<sup>あ</sup>の<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>を<sup>ま</sup>必<sup>あ</sup>知<sup>ま</sup>して<sup>ま</sup>。ま<sup>あ</sup>一<sup>ま</sup>万<sup>あ</sup>高<sup>ま</sup>さんと<sup>ま</sup>同<sup>あ</sup>意<sup>ま</sup>して<sup>ま</sup>。  
お<sup>あ</sup>松<sup>あ</sup>松<sup>ま</sup>と<sup>ま</sup>罪<sup>あ</sup>よ<sup>ま</sup>お<sup>ま</sup>一<sup>ま</sup>。聖<sup>あ</sup>が<sup>ま</sup>目<sup>あ</sup>免<sup>ま</sup>も<sup>ま</sup>角<sup>あ</sup>も<sup>ま</sup>。ア<sup>あ</sup>キ<sup>ま</sup>一<sup>ま</sup>書<sup>あ</sup>て<sup>ま</sup>お  
松<sup>あ</sup>松<sup>ま</sup>と<sup>ま</sup>宿<sup>あ</sup>り<sup>ま</sup>一<sup>ま</sup>お<sup>ま</sup>ア<sup>ま</sup>と<sup>ま</sup>さ<sup>あ</sup>い<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>せん<sup>ま</sup>。松<sup>あ</sup>六<sup>ま</sup>圓<sup>あ</sup>米<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>ゆ<sup>ま</sup>。

お<sup>あ</sup>母<sup>あ</sup>も<sup>ま</sup>種<sup>あ</sup>く<sup>ま</sup>四<sup>あ</sup>男<sup>ま</sup>よ<sup>ま</sup>暮<sup>あ</sup>く<sup>ま</sup>居<sup>あ</sup>る<sup>ま</sup>ゆ<sup>ま</sup>ハ<sup>ま</sup>伯<sup>あ</sup>父<sup>ま</sup>も<sup>ま</sup>必<sup>あ</sup>知<sup>ま</sup>で<sup>ま</sup>居<sup>あ</sup>る<sup>ま</sup>が<sup>ま</sup>ら。  
余<sup>あ</sup>ノ<sup>ま</sup>と<sup>ま</sup>と<sup>ま</sup>つ<sup>あ</sup>つ<sup>ま</sup>わ<sup>あ</sup>く<sup>ま</sup>全<sup>あ</sup>方<sup>ま</sup>。ま<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>伯<sup>あ</sup>父<sup>ま</sup>も<sup>ま</sup>先<sup>あ</sup>非<sup>ま</sup>と<sup>ま</sup>悔<sup>あ</sup>で<sup>ま</sup>る<sup>ま</sup>。  
お<sup>あ</sup>松<sup>あ</sup>松<sup>ま</sup>は<sup>ま</sup>左<sup>あ</sup>松<sup>ま</sup>い<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>と<sup>ま</sup>く<sup>あ</sup>え<sup>ま</sup>や<sup>ま</sup>ア。一<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>云<sup>あ</sup>込<sup>ま</sup>も<sup>ま</sup>終<sup>あ</sup>く<sup>ま</sup>米<sup>あ</sup>  
さん<sup>あ</sup>も<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>と<sup>ま</sup>自<sup>あ</sup>己<sup>ま</sup>と<sup>ま</sup>悟<sup>あ</sup>り<sup>ま</sup>と<sup>ま</sup>思<sup>あ</sup>う<sup>ま</sup>く<sup>ま</sup>お<sup>あ</sup>在<sup>あ</sup>る<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ま</sup>ら<sup>ま</sup>。ま<sup>あ</sup>の<sup>ま</sup>云<sup>あ</sup>  
伏<sup>あ</sup>ハ<sup>ま</sup>是<sup>あ</sup>です<sup>ま</sup>と<sup>ま</sup>。雷<sup>あ</sup>と<sup>ま</sup>つ<sup>あ</sup>つ<sup>ま</sup>て<sup>ま</sup>根<sup>あ</sup>く<sup>ま</sup>帯<sup>あ</sup>つ<sup>ま</sup>り。迷<sup>あ</sup>の<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>と<sup>ま</sup>中<sup>あ</sup>と<sup>ま</sup>  
判<sup>あ</sup>刀<sup>あ</sup>で<sup>ま</sup>。ま<sup>あ</sup>く<sup>ま</sup>坊<sup>あ</sup>主<sup>ま</sup>と<sup>ま</sup>米<sup>あ</sup>す<sup>ま</sup>一<sup>ま</sup>。モ<sup>あ</sup>一<sup>ま</sup>目<sup>あ</sup>好<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>と<sup>ま</sup>お<sup>あ</sup>松<sup>あ</sup>も<sup>ま</sup>云<sup>あ</sup>  
ま<sup>あ</sup>一<sup>ま</sup>こ<sup>あ</sup>ら<sup>ま</sup>う<sup>ま</sup>が<sup>ま</sup>。伯<sup>あ</sup>父<sup>ま</sup>が<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>通<sup>あ</sup>りの<sup>ま</sup>姿<sup>あ</sup>よ<sup>ま</sup>ら<sup>ま</sup>り<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>一<sup>ま</sup>と<sup>ま</sup>ら<sup>ま</sup>。是<sup>あ</sup>で<sup>ま</sup>  
何<sup>あ</sup>卒<sup>あ</sup>堪<sup>あ</sup>忍<sup>あ</sup>一<sup>ま</sup>て<sup>ま</sup>お<sup>あ</sup>是<sup>あ</sup>な<sup>ま</sup>せ<sup>ま</sup>。米<sup>あ</sup>一<sup>ま</sup>コ<sup>あ</sup>リ<sup>ま</sup>ヤ<sup>あ</sup>と<sup>ま</sup>ん<sup>ま</sup>ど<sup>ま</sup>ら<sup>ま</sup>ら<sup>ま</sup>。勿<sup>あ</sup>論<sup>あ</sup>

在助さん。相生の伯父と同輩としてあの始末より一いつまひ  
 の。清徳うらやましくやうき。まんざら睦くもわがトらのく  
 何も在助さん。すまじい。悪ののどやア。そ。お。思。わ。れ。全。株  
 自己の方で。へ。悪。叔。父。と。お。や。う。と。一。の。が。ア。い。ま。あ。換。な  
 つので。俗よりよ人。と。悪。が。人。よ。い。ま。い。ま。と。い。い。理。よ。時。よ  
 在助さん。そ。い。下。や。う。都。く。氣。の。毒。が。く。の。ト。在。助。が。方。と  
 兄。久。也。在。助。へ。刺。す。の。天。念。と。く。い。く。と。換。ま。す。一。を。一  
 今。久。治。う。ら。や。ま。と。通。り。私。が。石。見。一。と。い。ふ。ち。び。何。卒。也。免

る。す。で。下。さ。す。一。一。実。小。今。ま。い。通。り。サ。ツ。ク。清。徳。も。お。里  
 も。あ。く。未。だ。在。助。さん。う。と。は。い。す。ら。で。坊。主。も。味。も。ア。ま。る。ハ。ヤ  
 左。様。で。こ。ま。い。す。ま。り。エ。ト。奥。より。奉。上。の。お。里。も。奉。上。一。在。助  
 さん。ける。一。お。前。子。を。も。面。目。わ。ヨ。ク。一。お。里。さん。も。何。卒  
 様。思。一。と。き。く。お。里。さん。一。一。一。お。里。左。様。も。い。ろ。く  
 お。世。後。よ。う。で。居。る。う。ら。様。思。ま。り。の。ま。ま。の。い。お。ま。せ。ん。が。よ  
 の。わけ。依。ま。と。よ。ま。ら。う。と。い。思。う。は。実。小。ア。味。中。の。お。前。さん  
 かの。仕。組。も。ア。ま。い。思。い。ま。い。この。サ。る。一。私。も。サ。全。株。万

おろさんぐ余りの人ごと思ひます。スレ子也子且ね伯父  
 ぬが工。まろくをきで激し。うら。こふ一ツ古今稀代物  
 不測との理があらますのサ。アアア何ん久下どう  
 もサ。まろの系双紙。人情本でもあらうとの理。ま  
 ハテ。みどうの條。エ子。うら。久一先頃。例の川  
 時へ出るけす。まろく。大洲。お坊の。で  
 大野。の。佐ん。と。思。こ。わ。の。は。是。も。古。今。不。測。さ。久  
 一。所。が。海。で。お。怪。家。を。て。み。ト。是。より。鈴。の。表。へ。お

流。小。行。の。ひ。ま。も。お。を。佐。け。旅。路。へ。お。り。て。契。り。より。  
 宿。連。向。う。一。紙。を。う。く。今。日。小。お。り。て。紙。屑。の。中。小。の。ま。て  
 筍。の。及。古。より。お。遣。が。身。の。う。へ。と。め。一。つ。の。ま。を。送。り。の。  
 へ。ま。ぶ。その。座。は。在。の。人。へ。奇。異。の。思。ひ。ま。す。内。中。も。ま  
 次第。へ。一。方。も。な。た。飲。み。ま。テ。と。り。ま。ア。稀。有。さ。ま。な。お。く  
 左。板。と。お。り。や。ア。は。板。の。泥。船。も。出。ま。ひ。双。方。ま。る。く。納。ま  
 る。お。ろ。さ。け。が。ま。左。板。久。怪。さ。ま。の。子。へ。ま。ろ。く。ア。モ。ウ  
 今。日。白。羽。根。町。か。ら。ひ。ろ。久。一。今。日。の。ま。ろ。く。を。





おはるません。ア世も早く暮さんよおかしな事さう  
と思つて。夜中ねして暮る候でござるまはたのまつて  
久きんを首下やアお宿一人が善い中をばく居てその  
お宿で死人が氣を標さう。後をさうはよんごよ。久きん竹  
川さんよりう洗惚子の方ジ直ごらまをうる。久きんは  
しくぞりやア摺ッ売しのむくさんと藏殿と一ツよる  
らぬい子まアサマの洗惚ど何ぞか奪り。ササ登りし。  
そねぐの文と叔さんも昔備へのまコサおかしな容よ

家とと變ちやア。実よ島の毒でる。おれいも自己の伯父也  
が軍馬より出さるゆて。ア吉助さんの方の罪ハ怪い。その  
怪のよりう情をよまて。本人はあわうく。アてまもる  
が利。又うら何と初り。方中て世園らしてそそくサそ  
上でお流もお赤の方(舎藏と腹をぬして何も角も一  
折よ。固園とのよ。怪屋中へさう何後さうう。その趣向は  
おどト密々刺せ。息吹久活を助。坊直もまをうら。え  
子連承起。夫より。さるぐの種法よ。夜も白くとぬ

けとく久治いやぞを助とはひ。白羽振可いりて方お  
らよを。ち助づ害のまア一とんせ久一とて極みどうけ  
とぬの道伯又が島を了張うら。お前極よ情まんで清  
務が身交ととどめ。戻くの悪巧どうく米さんと  
逐出も始末の加勢とら。一ととやすとも妻一く  
と戻るとま六不残の承知のり。サテ昨日途中で米さん  
よびをますと。米さんしが双の外の島をて。を助と  
今うらそ方の宅へり。所で。儀事は儘一と並清路も

ゆきまこけおか置と遠く。妻くまひバ方おさん。と米娘との  
計思でよく自己が居る。所よ迷ふまう。とととと。自己  
み何の迷眼がみえく。こんを目と遠一とら。サア。そを以とて  
一ちと。き助と捕てくの。大旦那どうで。は極み奴の相對。  
ア。ア。ア。サア。細精所へおら。と。腕とつらめく。引招。  
イ。一。一。一。お。その。み。が。祭。完。て。入。ア。ア。ア。ま。ま。く。悪  
い。よ。ね。透。る。の。う。ら。種。く。傷。ま。ら。と。お。が。一。考。お。を。ま。さ。ら。ん。文  
で。さ。う。も。危。か。る。一。ふ。こ。の。舞。の。米。さん。の。入。ら。ま。る。前。で。

つまむく 坊主が来てさういふ。夫でわしは解。実より張遠へ  
 どのとて。髪まで剃らして。あんなにも恨もはせうが。是ういふ  
 ども 知縣許へ送らるゝ。相生の伯父が。始末を祈つて。おけを  
 やつらるゝ。いと多事で。狂気の如く。身を穿たす。居させさる。まもも  
 もどろがサテこの天幕に。やア。聖うら。商賣も。おそれ。どうし  
 たら。何らうと。さういふ。私の方へ。来りませう。さういふ。思へん  
 胆が。はと。種く。復なも。やり。み。と。跡の。な。り。て。役。ま。は。ひ。ア  
 と。免。も。角。も。は。始。末。と。お。始。末。よ。お。影。中。で。は。了。法。と。お。使。中。さ。う

と。思。つ。て。来。り。ま。す。一。ト。言。面。よ。書。で。詰。書。の。小。思。ひ。掛。合。六。万  
 ち。た。り。に。お。助。が。審。判。物。り。一。ま。さ。一。つ。ち。は。け。い。と。知。縣。許。へ。毛  
 ま。ら。ま。せ。は。け。身。も。洗。は。さ。り。心。の。程。に。懐。か。ね。ど。う。得。法。法。老  
 る。ま。い。か。し。も。弱。つ。て。思。は。な。せ。ば。一。何。の。お。助。さん。も。余。り  
 い。く。ち。の。ま。い。ご。で。彼。格。の。奴。が。波。を。さ。さ。る。と。お。さ。倒。一。て。わ。た。ら。は。い  
 小。坊。主。と。六。情。の。た。り。と。一。と。ち。の。法。工。目。に。が。と。と。知。縣。許。へ  
 祈。つ。る。と。う。へ。祈。つ。る。と。う。祈。つ。る。と。う。現。在。の。伯。父。と。對。して  
 ち。と。書。き。ま。して。誰。が。免。め。け。る。もの。か。勿。論。お。助。さん。は。内。証

と恃んで。清徳と振舞ひしつゝの世荒療治も志すわんが。  
は方ちあア唯一人の女兒と奪して居るよけぢけ方てよ  
そまよとまよと。彼女は泡と吹せくやらア。る麻と一い  
クイエモしまふ。お茶さんと。お茶松との退をで。中さぶ松とめ  
しつゝとゆつとアアとません。今朝能く来つゝと首さへ。お  
お辰は悪巧と恃まことなるまで。伯父づこのる体。この伏  
と何振ると付く巻てお馬みせ。モシまたお介解四換授  
る。お辰の徳と悪とわん。けとを許つて。おおと文とわん。ト  
不  
得  
久  
治  
の  
東  
子  
。とを尖く云放せ。万ちあも今さうふ  
當惑してぞ居たりける。

第三十回

折々隔の疎みよあけ。あへ入来るこの家の母親久治と  
を助もる渡去程一。何りの容子の次の子で安きと  
が。今丁稚の徳松が。ぬつと来てお置が口後まのふ不家  
米次第の遠し。今も久さんのつゝ通り。伯父さんと恨ま  
思つて。お辰と悪とわん。けとを許つて。おおと文とわん。ト

出る可也。出るとは、昔の夢の如き、白くうつろひ。そは、化人因  
志のこと。叔母の親しの中で。血で血を洗ふやうなり。あま  
ゆらぐうり詮方もわらう。ア、知縣西の作つた少く、集て  
と及た灰なるら。浪風まじく、固田もさ。ほぞお葉とであら  
うとく。あま一あうももて。むけむ。ぬるく。洵りまうとま。  
サテ何れも。受入る。今、細く、是れ、知縣所へ出る  
と、いふ。うづらひます。まは、よまづ。徒松と、まは、ぬ  
そ、又いと。粗まうと、上ますと、ある。勿論、最初、我任で。

お、流腺を、焼く、く、う、出来、こ、い、く、と、く、ま、う、ら、う。  
婿の別派で居る。婿枝と、内、心、く、徒、出、し、振、込、せ、る、と、い、ふ。  
余、ま、り、柱、を、出、来、ま、う、と、わ、ア、こ、ま、の、ま、せん、う。  
そ、の、下、り、を、を、理、り、ま、う、と、い、ふ、と、く、ま、う、ら、う。  
徒、と、す、る、と、い、ふ、と、ま、い、上、よ、ま、い、人、の、不、法、次、手。  
叔、母、の、故、後、でも、仕、ま、う、な、お、身、ら、ひ、い、世、に、な、る、の、胸、中、も  
あ、ま、い、ん、と、始、ま、り、一、方、ち、あ、ら、巧、の、不、ま、の、後、ま、う、ま、う。  
結、と、ま、り、く、顔、え、つ、り、ま、う、と、く、ま、う、ら、う。  
お、流、腺、を、焼、く、く、う、出、來、こ、い、く、と、く、ま、う、ら、う。  
婿、の、別、派、で、居、る、婿、枝、と、内、心、く、徒、出、し、振、込、せ、る、と、い、ふ。  
余、ま、り、柱、を、出、来、ま、う、と、わ、ア、こ、ま、の、ま、せん、う。  
そ、の、下、り、を、を、理、り、ま、う、と、い、ふ、と、く、ま、う、ら、う。  
徒、と、す、る、と、い、ふ、と、ま、い、上、よ、ま、い、人、の、不、法、次、手。  
叔、母、の、故、後、でも、仕、ま、う、な、お、身、ら、ひ、い、世、に、な、る、の、胸、中、も  
あ、ま、い、ん、と、始、ま、り、一、方、ち、あ、ら、巧、の、不、ま、の、後、ま、う、ま、う。  
結、と、ま、り、く、顔、え、つ、り、ま、う、と、く、ま、う、ら、う。

こまろ <sup>の</sup>居る <sup>せ</sup>居る <sup>ため</sup>に <sup>し</sup>し <sup>つ</sup>つ <sup>て</sup>て <sup>も</sup>も <sup>不</sup>不 <sup>得</sup>得 <sup>女</sup>女 <sup>の</sup>の <sup>う</sup>う <sup>ま</sup>ま <sup>り</sup>り <sup>と</sup>と  
一と <sup>知</sup>知 <sup>つ</sup>つ <sup>く</sup>く <sup>二</sup>二 <sup>と</sup>と <sup>あ</sup>あ <sup>ら</sup>ら <sup>わ</sup>わ <sup>早</sup>早 <sup>竟</sup>竟 <sup>ア</sup>ア <sup>ノ</sup>ノ <sup>通</sup>通 <sup>り</sup>り <sup>の</sup>の <sup>ゆ</sup>ゆ <sup>き</sup>き <sup>直</sup>直 <sup>六</sup>六 <sup>と</sup>と <sup>米</sup>米 <sup>次</sup>次 <sup>年</sup>年  
<sup>め</sup>め <sup>の</sup>の <sup>勤</sup>勤 <sup>者</sup>者 <sup>と</sup>と <sup>く</sup>く <sup>る</sup>る <sup>彼</sup>彼 <sup>ど</sup>ど <sup>理</sup>理 <sup>乃</sup>乃 <sup>と</sup>と <sup>を</sup>を <sup>さ</sup>さ <sup>す</sup>す <sup>と</sup>と <sup>日</sup>日 <sup>め</sup>め <sup>わ</sup>わ <sup>ア</sup>ア <sup>お</sup>お <sup>流</sup>流 <sup>が</sup>が <sup>死</sup>死 <sup>ね</sup>ね <sup>六</sup>六 <sup>解</sup>解 <sup>死</sup>死  
<sup>人</sup>人 <sup>よ</sup>よ <sup>出</sup>出 <sup>な</sup>な <sup>け</sup>け <sup>ら</sup>ら <sup>も</sup>も <sup>あ</sup>あ <sup>る</sup>る <sup>ぬ</sup>ぬ <sup>米</sup>米 <sup>次</sup>次 <sup>年</sup>年 <sup>今</sup>今 <sup>更</sup>更 <sup>加</sup>加 <sup>る</sup>る <sup>奴</sup>奴 <sup>と</sup>と <sup>云</sup>云 <sup>茶</sup>茶 <sup>あ</sup>あ <sup>の</sup>の <sup>伯</sup>伯  
<sup>父</sup>父 <sup>が</sup>が <sup>悲</sup>悲 <sup>悪</sup>悪 <sup>の</sup>の <sup>ち</sup>ち <sup>ら</sup>ら <sup>ひ</sup>ひ <sup>母</sup>母 <sup>「</sup>「 <sup>何</sup>何 <sup>故</sup>故 <sup>ま</sup>ま <sup>と</sup>と <sup>そ</sup>そ <sup>う</sup>う <sup>や</sup>や <sup>ア</sup>ア <sup>解</sup>解 <sup>死</sup>死 <sup>人</sup>人 <sup>小</sup>小 <sup>万</sup>万 <sup>「</sup>「 <sup>知</sup>知 <sup>と</sup>と  
<sup>と</sup>と <sup>の</sup>の <sup>サ</sup>サ <sup>も</sup>も <sup>と</sup>と <sup>か</sup>か <sup>ろ</sup>ろ <sup>「</sup>「 <sup>殺</sup>殺 <sup>「</sup>「 <sup>を</sup>を <sup>せ</sup>せ <sup>ね</sup>ね <sup>米</sup>米 <sup>次</sup>次 <sup>年</sup>年 <sup>が</sup>が <sup>我</sup>我 <sup>行</sup>行 <sup>止</sup>止 <sup>み</sup>み  
<sup>お</sup>お <sup>流</sup>流 <sup>は</sup>は <sup>ら</sup>ら <sup>を</sup>を <sup>出</sup>出 <sup>し</sup>し <sup>て</sup>て <sup>ト</sup>ト <sup>の</sup>の <sup>よ</sup>よ <sup>と</sup>と <sup>又</sup>又 <sup>流</sup>流 <sup>が</sup>が <sup>引</sup>引 <sup>と</sup>と <sup>う</sup>う <sup>て</sup>て <sup>ス</sup>ス <sup>「</sup>「 <sup>ヤ</sup>ヤ <sup>モ</sup>モ <sup>レ</sup>レ <sup>く</sup>く  
<sup>お</sup>お <sup>言</sup>言 <sup>の</sup>の <sup>中</sup>中 <sup>み</sup>み <sup>が</sup>が <sup>ら</sup>ら <sup>そ</sup>そ <sup>お</sup>お <sup>流</sup>流 <sup>さ</sup>さ <sup>ん</sup>ん <sup>が</sup>が <sup>を</sup>を <sup>美</sup>美 <sup>息</sup>息 <sup>災</sup>災 <sup>で</sup>で <sup>居</sup>居 <sup>る</sup>る <sup>時</sup>時 <sup>ハ</sup>ハ <sup>何</sup>何 <sup>根</sup>根

みさる <sup>エ</sup>エ <sup>「</sup>「 <sup>何</sup>何 <sup>根</sup>根 <sup>さ</sup>さ <sup>る</sup>る <sup>の</sup>の <sup>う</sup>う <sup>昔</sup>昔 <sup>が</sup>が <sup>女</sup>女 <sup>児</sup>児 <sup>の</sup>の <sup>ゆ</sup>ゆ <sup>き</sup>き <sup>ら</sup>ら <sup>昔</sup>昔 <sup>が</sup>が <sup>引</sup>引  
<sup>さ</sup>さ <sup>る</sup>る <sup>分</sup>分 <sup>の</sup>の <sup>ゆ</sup>ゆ <sup>「</sup>「 <sup>左</sup>左 <sup>根</sup>根 <sup>「</sup>「 <sup>て</sup>て <sup>え</sup>え <sup>ま</sup>ま <sup>六</sup>六 <sup>米</sup>米 <sup>さん</sup>さん <sup>年</sup>年 <sup>り</sup>り <sup>が</sup>が <sup>つ</sup>つ <sup>ま</sup>ま <sup>し</sup>し <sup>「</sup>「 <sup>父</sup>父 <sup>「</sup>「  
<sup>親</sup>親 <sup>の</sup>の <sup>子</sup>子 <sup>と</sup>と <sup>思</sup>思 <sup>ふ</sup>ふ <sup>へ</sup>へ <sup>誰</sup>誰 <sup>「</sup>「 <sup>も</sup>も <sup>お</sup>お <sup>ま</sup>ま <sup>い</sup>い <sup>「</sup>「 <sup>ゆ</sup>ゆ <sup>る</sup>る <sup>床</sup>床 <sup>を</sup>を <sup>見</sup>見 <sup>心</sup>心 <sup>ど</sup>ど <sup>可</sup>可 <sup>也</sup>也 <sup>と</sup>と  
<sup>聖</sup>聖 <sup>の</sup>の <sup>通</sup>通 <sup>り</sup>り <sup>ア</sup>ア <sup>「</sup>「 <sup>啞</sup>啞 <sup>方</sup>方 <sup>の</sup>の <sup>米</sup>米 <sup>次</sup>次 <sup>年</sup>年 <sup>「</sup>「 <sup>ヤ</sup>ヤ <sup>レ</sup>レ <sup>米</sup>米 <sup>ヨ</sup>ヨ <sup>ッ</sup>ッ <sup>レ</sup>レ <sup>米</sup>米 <sup>ヨ</sup>ヨ <sup>「</sup>「 <sup>と</sup>と <sup>け</sup>け <sup>は</sup>は <sup>母</sup>母 <sup>が</sup>が  
<sup>え</sup>え <sup>「</sup>「 <sup>や</sup>や <sup>ア</sup>ア <sup>の</sup>の <sup>ゆ</sup>ゆ <sup>「</sup>「 <sup>況</sup>況 <sup>く</sup>く <sup>お</sup>お <sup>流</sup>流 <sup>「</sup>「 <sup>親</sup>親 <sup>孝</sup>孝 <sup>行</sup>行 <sup>で</sup>で <sup>寒</sup>寒 <sup>然</sup>然 <sup>な</sup>な <sup>る</sup>る <sup>ま</sup>ま <sup>と</sup>と <sup>う</sup>う <sup>さ</sup>さ  
<sup>夫</sup>夫 <sup>と</sup>と <sup>亡</sup>亡 <sup>「</sup>「 <sup>と</sup>と <sup>昔</sup>昔 <sup>が</sup>が <sup>ん</sup>ん <sup>中</sup>中 <sup>推</sup>推 <sup>察</sup>察 <sup>「</sup>「 <sup>て</sup>て <sup>ト</sup>ト <sup>さ</sup>さ <sup>し</sup>し <sup>「</sup>「 <sup>と</sup>と <sup>見</sup>見 <sup>六</sup>六 <sup>米</sup>米 <sup>不</sup>不 <sup>ど</sup>ど  
<sup>心</sup>心 <sup>を</sup>を <sup>ま</sup>ま <sup>で</sup>で <sup>う</sup>う <sup>ら</sup>ら <sup>腹</sup>腹 <sup>医</sup>医 <sup>子</sup>子 <sup>「</sup>「 <sup>這</sup>這 <sup>致</sup>致 <sup>な</sup>な <sup>す</sup>す <sup>ら</sup>ら <sup>あ</sup>あ <sup>も</sup>も <sup>分</sup>分 <sup>て</sup>て <sup>居</sup>居 <sup>ま</sup>ま <sup>す</sup>す <sup>が</sup>が <sup>そ</sup>そ  
<sup>腹</sup>腹 <sup>心</sup>心 <sup>が</sup>が <sup>息</sup>息 <sup>災</sup>災 <sup>で</sup>で <sup>居</sup>居 <sup>る</sup>る <sup>ら</sup>ら <sup>仔</sup>仔 <sup>細</sup>細 <sup>ハ</sup>ハ <sup>な</sup>な <sup>ま</sup>ま <sup>す</sup>す <sup>め</sup>め <sup>「</sup>「 <sup>が</sup>が <sup>そ</sup>そ <sup>時</sup>時 <sup>六</sup>六 <sup>米</sup>米 <sup>さん</sup>さん

の者とは何れをさると申すゆへサ万一嫁へ死なば是れはさしやうも  
ひらこゆき ぬ 万一活きて居て。あゝぬくま且つその時ハ米次第の幼黄  
吾が勸解して宅へ入ると。おと配せるおのよサ今米を  
夫らうそまよし。そ怒で清捨が納まりハ万一おのさうが婿  
娘のと。大金を出して者受と女どろ異ろと云るる米よ  
挙る。望がさるる吾が引うけく。米のやけのものと。スレそ  
怒でお助がこの天をハ万イヤヤと道しゆわアチト當惑。ミタ  
夫ハ昔人の了法でまことごとく。吾が知つて理でもさハスレイヤカ

らぬと云は作まします。お情をうけて悪巧のまはひと使はさるりて。  
け胎末米さんよ睡のまこと。お流さんが近おしうら。モシ死ねむ  
米さんと。解死人よまると今法作ら。お助の天意もとの及  
理ト云まこと。万ちあ笑いと合と。万イヤヤを極ハ年ハ弱い。  
法も如在のみの利害の。なる絶を助どの。天意のよ万よ一  
ツもお流がをさるる名のをままでの手宛金百両でも二  
百両でも。望の身をせませう。つくその付りお流のゆ方が  
まねけるや。天意の利損。そのやアどうも詮方がね



「まゐるぶを叔の伝文と下します。万が一は伝文が入る  
う。あふ慈母も安く居る。この万が一は伝文が入る  
と男よちる。さうさな左様でござるませう。イヤ、是は早朝  
より。さうくとお置きたる。山帳やませう。トこの家のあふ  
も帳と告ぐ。喘くまゆる。川ちがて入来る。糸の巾着の  
おと後くと。奥へ通る傾城清捨との元形も志どけなく  
万が一は伝文と下します。お茶板へアる麻らまら。わ  
ちません。さうける中より成度と簡と下します。さうと

へんじ  
返るもさ。早くあの宅へ入るか。是をさす。大い余り  
さうさな。今日思ひまら。さうさな。他を  
ゆの程うなまら。何れとも早く。さうさな。まら  
つ侍へす。まら。万が一は伝文と下します。母の元形も志どけなく。  
突除く白眼の子。一獨股子どもと云ふ。余りおと  
相奴。左様。さうさな。僅僅とさける。あふ。  
け方もた。せ。安ん。さうさな。様々。様々。様々。  
へ。その時。さうさな。さうさな。さうさな。さうさな。

志をこけてト云と傍ら母見がらんわらうと晴れのもの夜の  
暗末万ちあが巧そのことまぐとけしべ清静の見相くそ万ちあ  
が傍らまより左指のりよとあまらぶ縁切ごう一私と  
彌一とこと教養よ米さんと勅當させおま人の心根。そ  
悔よト元丸。後の卿ちうまら給よ万ちあはまとい天の當  
感みして云自もむだ母らんよはく。おんどをぬくまう  
理づく。清静とまらう。まじ懸一う。何とぞ一懸のり  
ゆせまらう。まらう。あんと懸たまで。清静のまらう。眼

もたんとあくし。便ふうち業しちうの

是なる米次帝と久治がお使ゆく。万ちあは困を  
且恥とよして。その善惡よらんまんとあけひらう  
跡見かくまう万ちあグレサテ今日りゆく。る麻りの  
来る目ざく慈母さぞ板がまらう。下若と切らる顔とそ  
母元つとら米次帝と。ませがあらう。記つら。法ちあ  
お板斗室と眼む及理もごう。ません。下ひも終らぬよ  
まじ一疑の便とら。舞いあ。ひのまら。何とわと見



る。処子。亦より来る。左助と久徳が。復の。右後子。是つひで。万  
ち。あ。子。月。れ。一。久。一。サ。ア。お。徳。さん。と。連。う。来。ま。す。一。と。下。ひ。ひ。つ。  
復の。糸。と。ゆ。げ。ま。ば。お。徳。入。り。と。袖。と。めて。面。目。な。げ。ふ。内。入。り。  
万。ち。一。ハ。油。と。り。一。是。い。ま。う。一。わ。と。是。も。半。全。母。も。出。出。是。  
ま。る。と。一。修。は。登。り。く。ま。う。ま。り。一。睡。く。ま。う。ら。も。万。ち。一。ハ。お。徳。が  
侍。入。ま。り。来。り。一。親。小。若。骨。を。う。け。し。る。候。く。一。機。め。ら。し。し。一  
洞。へ。さ。り。一。情。し。う。一。と。是。出。ひ。一。通。妻。細。い。と。れ。中。と。し。す  
ゆ。と。万。ち。一。ハ。う。け。た。て。ま。う。と。一。橋。下。一。万。一。ハ。夫。ト。や。今

まで。久治。どの。親。子の。世。傳。ふ。来。て。居。る。この。り。左。松。と。志。と。は  
この。親。又。ハ。手。伝。へ。も。志。し。ぬ。ゆ。え。身。も。投。う。然。も。ま。ら。出。兒。の  
変。位。と。い。は。流。し。も。も。と。う。と。月。の。業。ト。志。う。一。よう。を。考。へ  
居。る。こと。う。得。又。ふ。の。思。は。し。ら。す。より。い。ま。は。所。由。で。万。ち。一。ハ。が  
情。り。一。ち。ま。ち。解。る。意。水。の。朝。日。よ。む。ふ。ゆ。く。ゆ。て。ぬ。く。を  
ト。で。居。や。う。一。と。思。ひ。ぬ。ゆ。え。は。様。々。の。巧。と。な。り。て。人。々。も。迷  
惑。う。け。し。て。今。さ。ら。は。チ。ト。後。悔。の。面。持。ま。り。と。の。時。久。治。は  
米。次。市。が。母。親。小。向。ひ。つ。筋。中。も。お。徳。と。さ。る。と。一。通。り。一。お。徳。さん

まめ居る。何れも仔細の事。何れも  
幼當を伴して目かしく。母の元来憎しき。せしこと  
流く。幼當の仇するゆぞ。母の元来憎しき。せしこと  
うねる。忽地承知。伯父さんの心が解。左様な作らるる。ば  
私に放し仔細の事。しりよりのせしこと。使松と怒が是れ  
世。米次郎の事。おきて米次郎の家は。吉田と櫻井  
てお里と。清結と。怒が是れの家。おきて。母の  
とも。お里と。清結と。怒が是れの家。おきて。母の

元のゆく。米次郎の事。おきて米次郎の家は。吉田と櫻井  
世。米次郎の事。おきて米次郎の家は。吉田と櫻井  
てお里と。清結と。怒が是れの家。おきて。母の  
とも。お里と。清結と。怒が是れの家。おきて。母の

次第が方へ引とう久ほくをぬきて改めて清く船が音へ響け  
 き世の憂へひむく一清と基てたのしきと改めたる下。  
 曾て万をくかの賣卜者本意丸赤く相成のれをまし。を  
 脚への髪の手をまでの手宛とて金二百兩を送り。且まむ  
 清く船へ泥河の龜屋へ先頃のれとて。親多の公を親を養  
 ると送り。け一節は掛り合する人々。まま夫々小妾樂の引と  
 るりく。月おびあけける次才より

伊勢熊

伊勢熊

閑情未摘花第五編卷之下了

